

焼岳の火山活動解説資料

気象庁地震火山部
火山監視・警報センター

焼岳では、22日09時頃から山頂の北西1 kmから2 km付近で海面下約3 kmとやや深いところを震源とする地震が増加し、多い状態が継続しています。

山頂付近の浅い場所で発生する低周波地震や火山性微動は観測されていません。また、地殻変動や噴煙の状況に特段の変化はありません。

この地震に関連して浅部の火山活動の活発化を示す現象は認められていません。

【防災上の警戒事項】

山頂付近では噴気や火山ガスの噴出に注意してください。

今後の活動の推移に注意してください。

○ 活動概況

22日09時頃から、山頂の北西1 kmから2 km付近で海面下約3 kmとやや深いところを震源とする地震活動が継続しています。なお、本日は地震の数が非常に多いため、やや振幅の大きな（南峰南方南東観測点で $30 \mu\text{m/s}$ 以上）地震のみを計数しており、15時までに771回となっています。また、高山市奥飛騨温泉郷栃尾で昨日（23日）から本日15時までに震度1を19回観測しています。

山頂付近の浅い場所で発生する低周波地震や火山性微動は観測されておらず、震源の浅い場所へ移動は認められていません。また傾斜計による観測でも山頂方向の隆起は認められません。監視カメラによる観測でも噴気や熱異常域に特段の変化は認められません。

以上のことから、この地震に関連して浅部の火山活動の活発化を示す現象は認められていません。

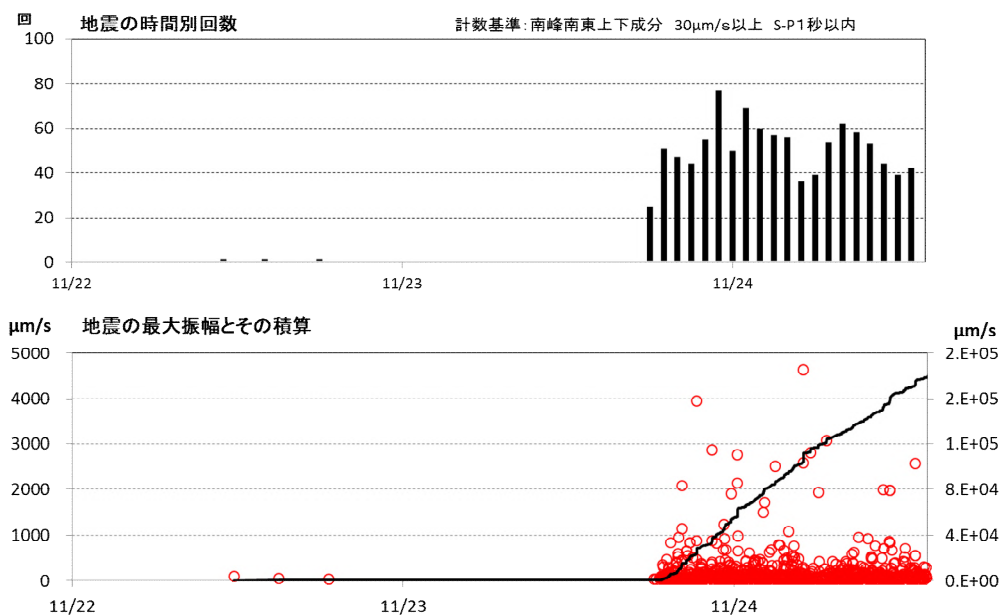


図1 焼岳 やや振幅の大きな地震の時間別回数と振幅（2018年11月22日～24日14時）

○：最大振幅（左軸） 実線：最大振幅の積算（右軸）

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php）でも閲覧できます。

この資料は気象庁のほか、北陸地方整備局、国土地理院、京都大学、名古屋大学、東京大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

資料の地図の作成に当たっては、国土地理院の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』『数値地図 25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号 平 29 情使、第 798 号）。

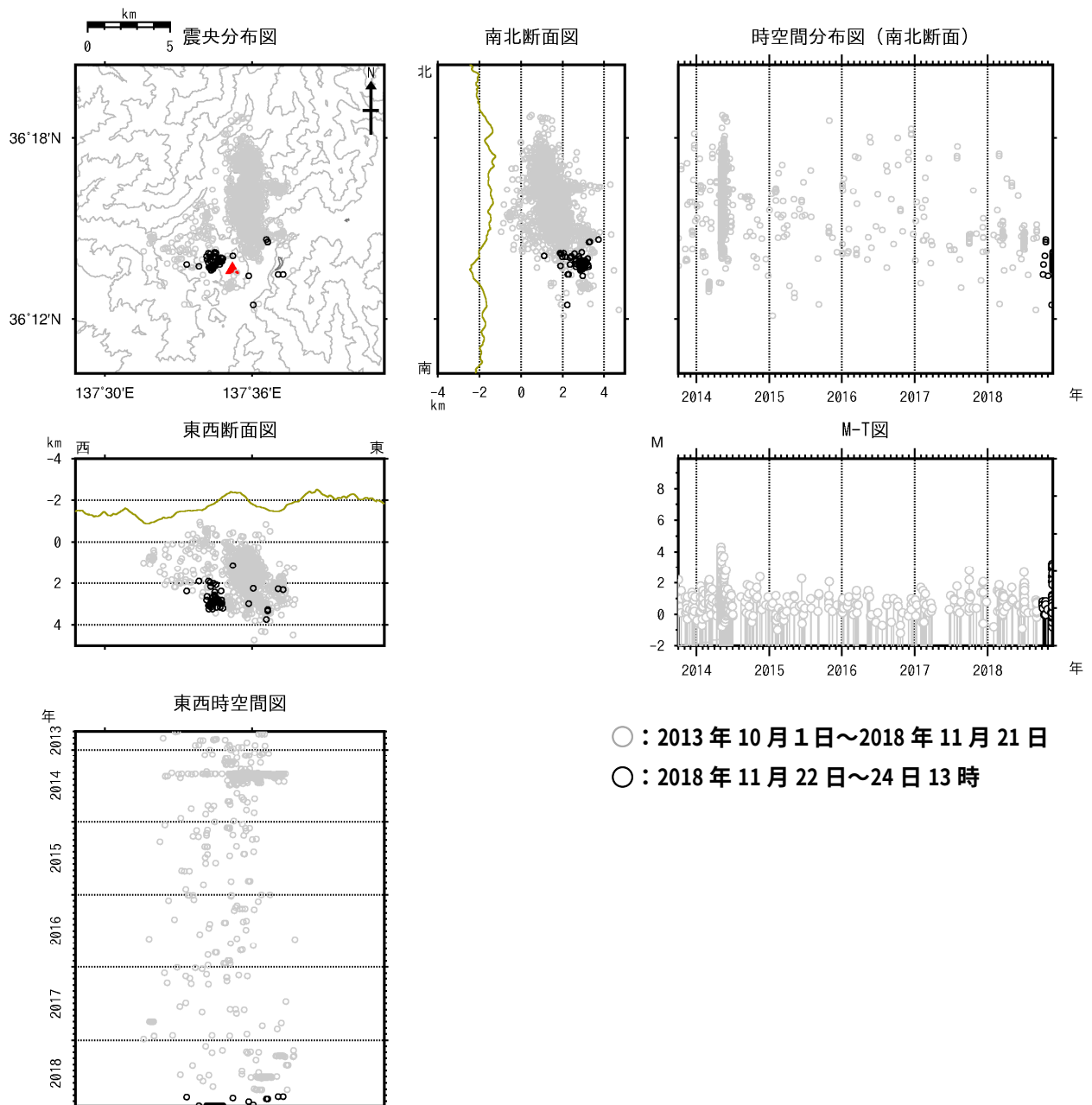


図2 焼岳 震源分布図 (2013 年 10 月 1 日～2018 年 11 月 24 日 13 時)
山頂の北西 1 km から 2 km 付近で海面下約 3 km を震源とする地震活動が継続しています。

マグニチュードは渡辺の式による。
震源計算方法は 2017 年 8 月 1 日に変更しています。

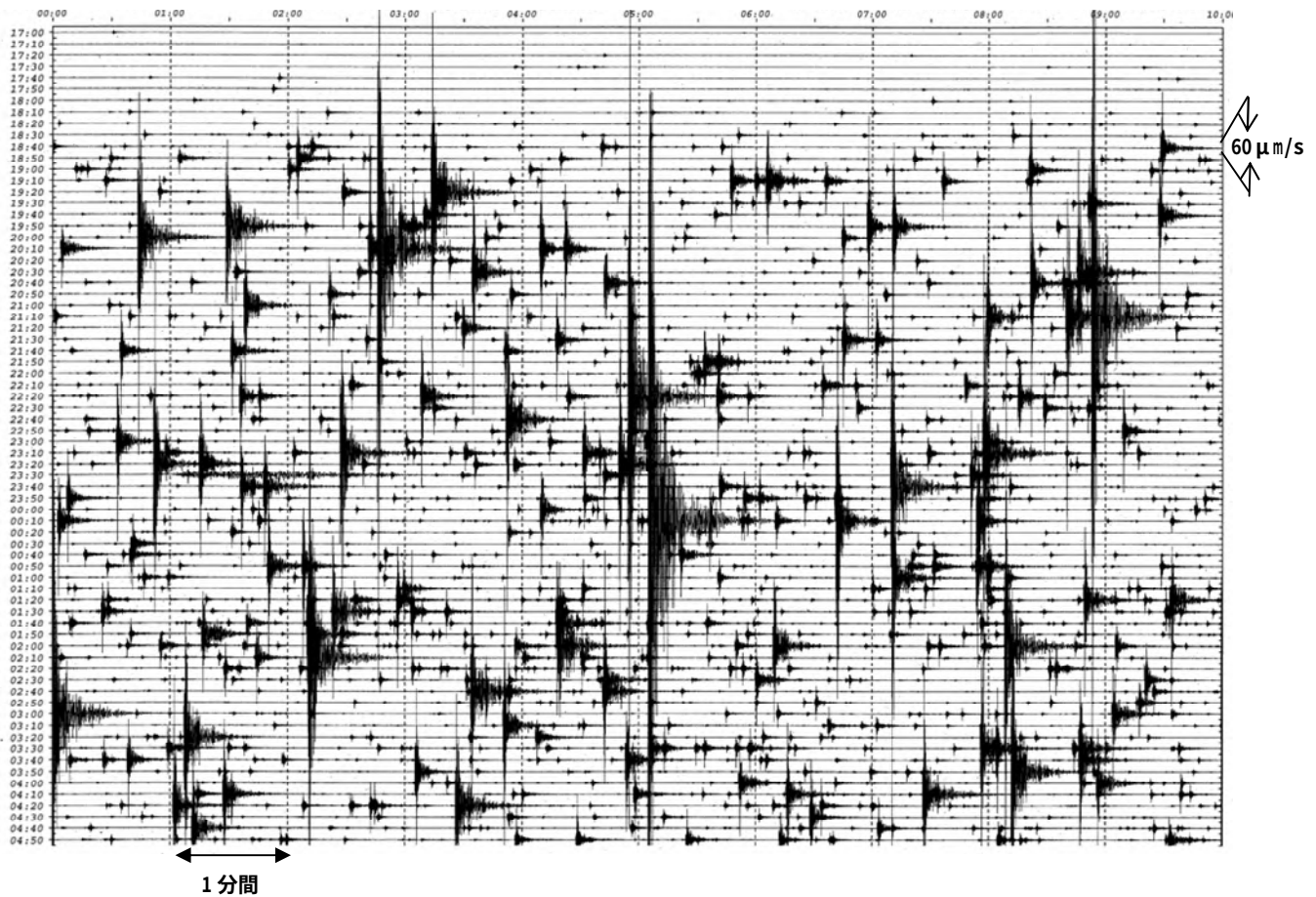


図3 焼岳 地震の発生状況（2018年11月23日17時～24日05時、南峰南東観測点上下動）

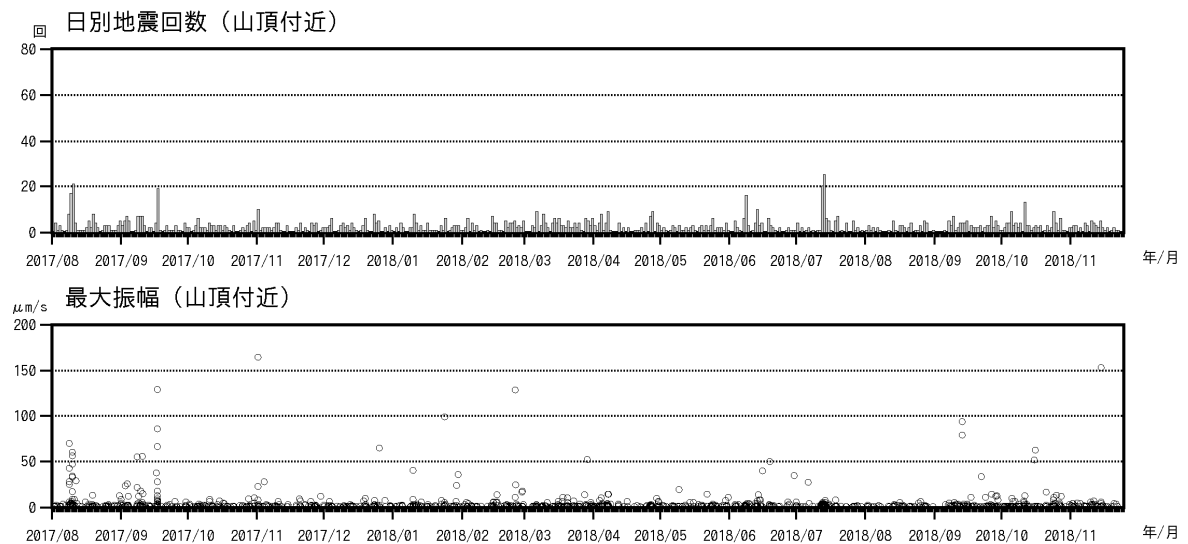


図4 焼岳 山頂付近で発生した地震の回数と振幅（2017年8月1日～2018年11月24日15時）

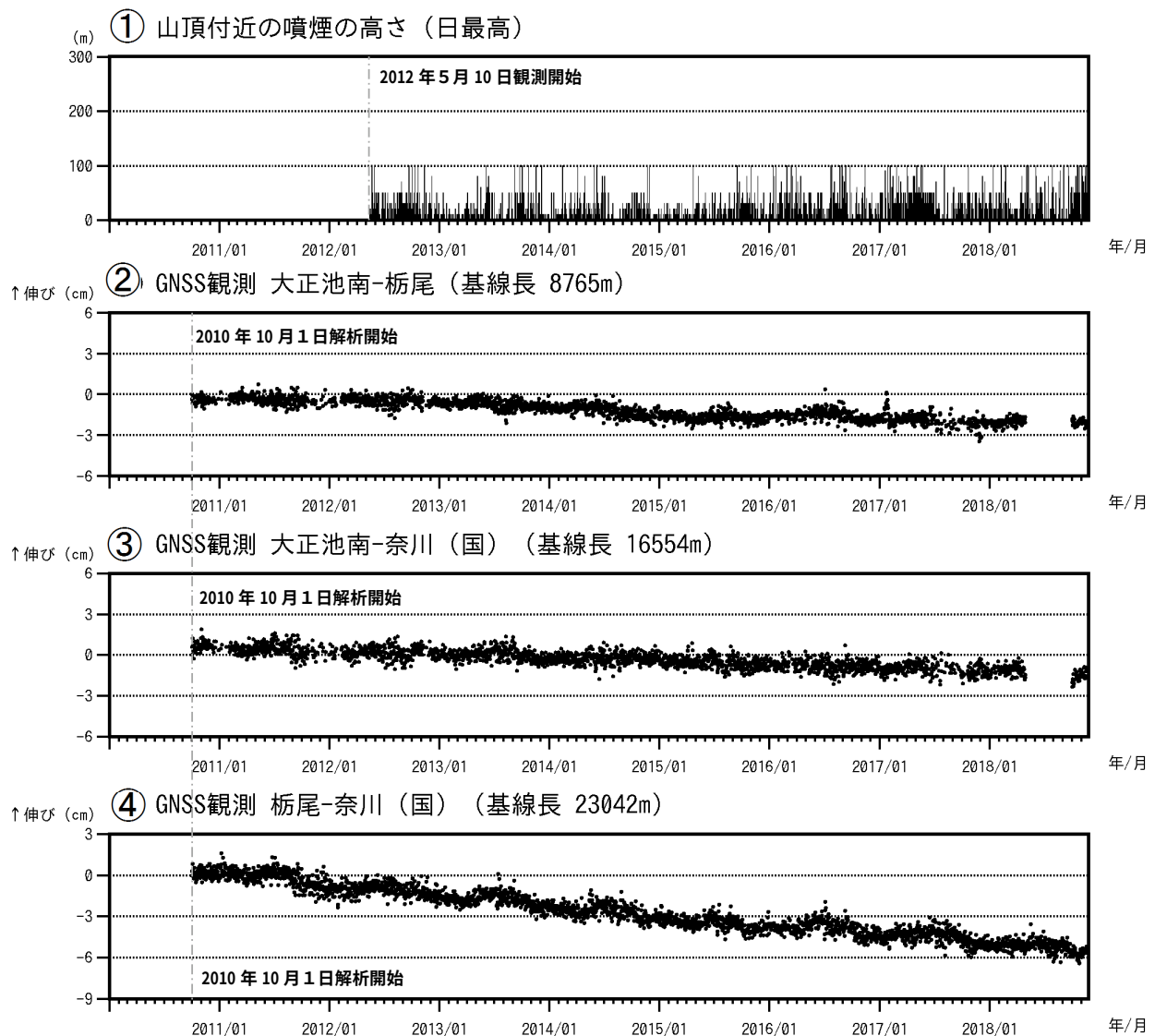


図5 焼岳 火山活動経過図 (2010 年 10 月 1 日～2018 年 11 月 24 日 13 時)

②～④ GNSS 連続観測による基線長変化 （国）：国土地理院

図 7 の GNSS 基線②～④に対応しています。グラフの空白部分は欠測を示します。

平成 23 年(2011 年)東北地方太平洋沖地震によるステップを補正しています。



図6 焼岳 山頂部及び北東斜面の状況 (2018 年 11 月 24 日 12 時)

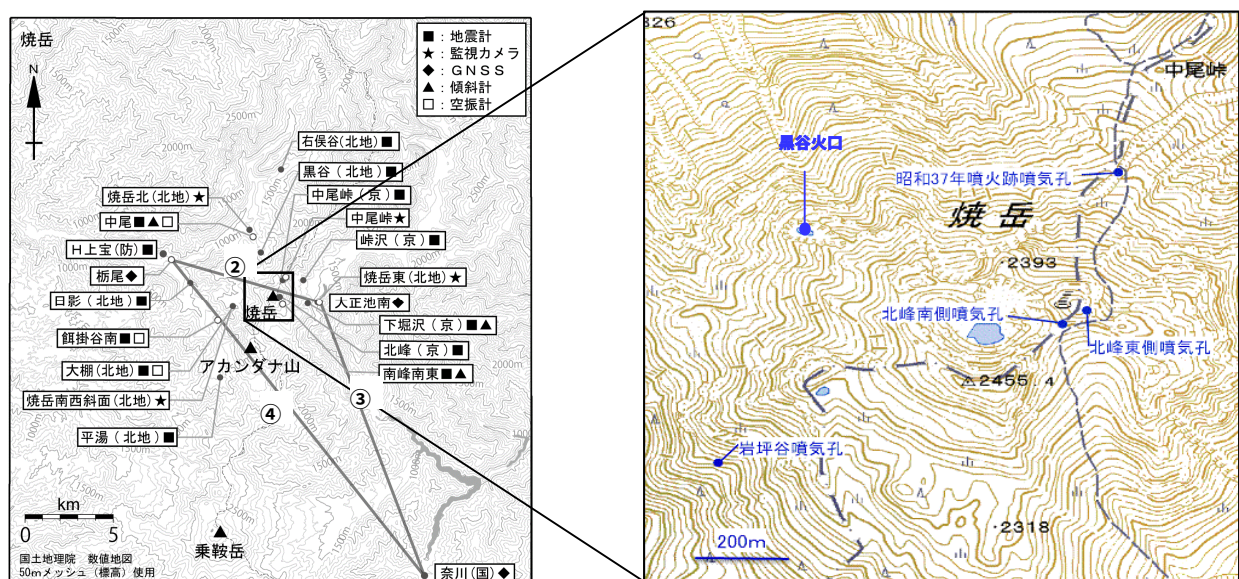


図7 焼岳 観測点配置及び噴気孔位置
GNSS 基線②～④は図5の②～④に対応しています。